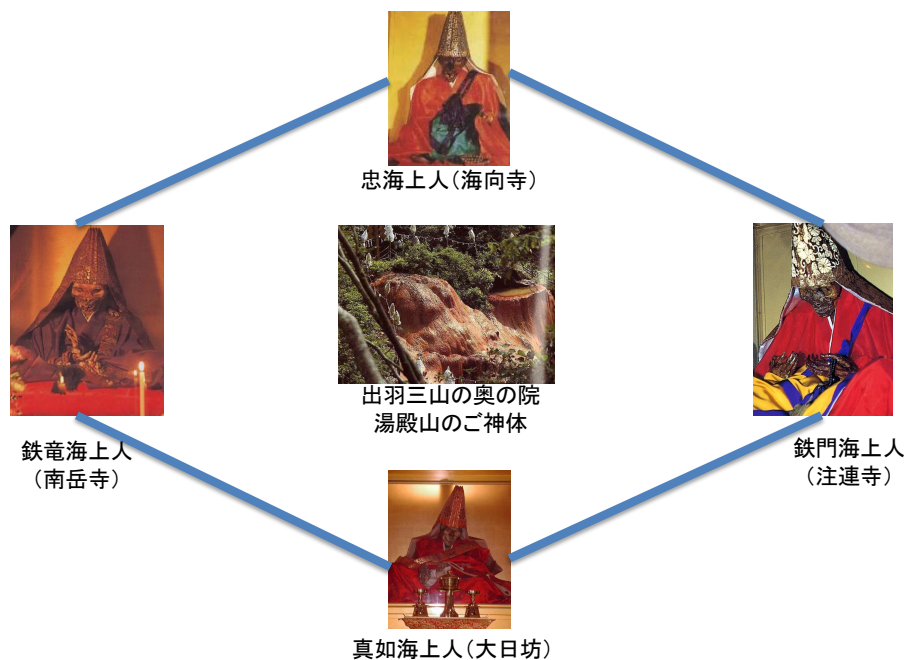


即身仏による結界

出羽三山は湯殿山を奥の院とし、
即身仏(ミイラ)となった念力によって結界が張られている。



9

出羽の結界を解く者

即身仏の念力を解けるのは即身仏の世界観を
構築し、自らが最初の即身仏となった者。



10

高野山開山にあたっての秘話

弘仁七年(816年)空海は嵯峨天皇から高野山を賜るが、高野山の地を空海が**丹生都比売**から譲り受けた。

空海が霊地を求めて大和国宇智郡まで来たとき南山の**犬飼なる大男(狩場明神)**にあった。大男の協力で**大小二匹の黒犬**が案内し、紀伊との境の川辺で一泊した。そこに一人の山民が現れ空海を山へ導いた。山の王、丹生明神・天野宮の神であった。この宮の託宣により丹生明神は自分の神領(高野山)を空海に献じた。



狩人
=オリオン座

2匹の犬
=シリウスAとB

空海
=金星

シリウス



借用書の説話

〈説話1〉

弘法大師は高野明神から十年間の期限付きで神領地を借り受けたが、その後密かに十の上に点を加えて千とした。高野明神が十年後返還を求めたが、千を盾に応じなかったと云う。

〈説話2〉

千年の借用書で借り受けたが、白ネズミが千の文字を食い破ったので、永久に借り受け、返還せずとも良くなった。

この説話の背景には、神道(コトタマ)と仏教(梵字)の対立があり、空海は今年2015年の高野山開山1200年を期に、即身仏となっている自らの結界を解き、丹生都比売に対して土地を返還しなければならない。 梵字からカタカナへ！

明神奉迎

高野山における明神奉迎とは高野山内の寺院が一年間持ち回りで、明神様をお迎えし、お供え物を毎日取り替え、一日一座の勤めを行うというもの。明神様とは二柱いて「**狩場明神**」とその母である「**丹生明神**」。お祀りしている一年間は、お灯明とお香を絶やしてはならないとされている。



櫻池院



天徳院

高野山 御社

真言宗の総本山・金剛峯寺の境内には、空海が819年に山麓の天野社(丹生都比売神社)から勧請した「御社」がある。社殿は三つあり、一宮は丹生明神、二宮は高野明神、三宮は十二王子・百二十伴神が奉られている。



丹生都比売神社

丹生都比売神社は天照大御神の妹神、丹生都比売大神を主祭神に4柱の神をまつり、全国に約180ある丹生都比売大神をまつる神社の総本山。昨年の2014年11月15、16日に「遷宮」が営まれた。



空海の名「佐伯真魚」

空海は774年(宝亀5年)6月15日に善通寺で、父・**佐伯**真田公(さえきのあたいたぎみ)(地方長官)・母・阿古屋(阿刀家出身)の間に誕生し、名を**佐伯**真魚(まお)とした。

佐伯のルーツは蝦夷

佐伯部は古代日本における品部の1つであるが、ヤマト王権の拡大過程において、中部地方以東の東日本を侵攻する際、捕虜となった現地人(ヤマト王権側からは「**蝦夷**・毛人」と呼ばれていた)を、近畿地方以西の**西日本に移住**させて編成したもの。

『日本書紀』によれば、日本武尊が東征で捕虜にした蝦夷を初めは伊勢神宮に献じたが、昼夜の別なく騒いで神宮にも無礼を働くので、倭姫命によって朝廷に差し出され、次にこれを三諸山(三輪山)の山麓に住ませたところ、今度は大神神社に無礼を働き里人を脅かすので、「畿内に住むべからず」との景行天皇の命で、播磨・**讃岐**・伊予・安芸・阿波の5ヶ国に送られたのがその祖であるとの起源を伝えている。

空海の祖先は「月読」の一族

正史以前の古代において「**北の卑弥呼**」の一族が東北に発展的文化をもたらす

「**蝦夷**」と称する一族の中で霊的なマツリゴトを執り行っていたのが「佐伯一族」。もっとも重要な霊場のひとつが「出羽三山」であった。

彼らは「**南の卑弥呼**」の一族である大和朝廷に支配され、西の地に移住させられる。**讃岐**の移住した一族の中から「**空海**」が誕生する。

空海の実言密教が、宮中(天皇制)を呑み込み「**本地垂迹**」の世界観を生み出す。

明治維新の廃仏毀釈で神仏習合が終わったが、それ以降も**即身仏信仰**が出羽三山神社の奥の院「湯殿山」に残り今も現存し、月山一体の結界を張っている。

2015年の高野山開山1200年祭に合わせて、**高野山を丹生都比売に返還**し、同時に**空海は湯殿山に結界を張る4人の即身仏らに対してその結界を解く命を出し**、それにより日本の神々(天照大神、スサノオ、月読)が統合されることになる。

2015年は日本神界がひとつになる

渦御子の三貴子が和解することで
日本の神々はオール・ジャパンとなる

2015年

